



## 審査結果報告書

2021 年 2 月 5 日

主 査 氏 名 隈元 雄介 

副 査 氏 名 田邊 聡 

副 査 氏 名 村雲 芳樹 

副 査 氏 名 井上 優介 

1. 申請者氏名 : DM17028 升谷 寛以

2. 論文テーマ :

On-site stereomicroscope quality evaluation to estimate white core cutoff lengths using EUS-FNA biopsy sampling with 22-gauge needles

(22ゲージ針を使用したEUS-FNABにおける病理診断に必要な白色コア検体のカットオフ長を推定するための実体顕微鏡を用いた探索的研究)

3. 論文審査結果 :

升谷先生は、近年新しい検査方法として臨床上重要性が増している超音波内視鏡下組織生検をテーマとし、その診断精度を高めるための前向き探索的臨床研究を行った。これまでは、採取した組織をその場で病理診断医が組織の質を検討する ROSE という方法や、19ゲージの太めの針を用いて採取組織の長さを検討した MOSE という方法に関する先行研究が存在していたが、今回、升谷先生は、22ゲージ針による生検によって検査リスクを低減させることと双眼式顕微鏡を用いた SIPS 処理という方法を自分たちで行う事で、病理医の帯同不要という人的リソースがない病院でも使える方法を考案し、白色検体長 11 ミリ以上が診断に必要という新しい知見を発見し、英文雑誌に報告した。

ヒトを対象にした前向き臨床研究の計画作成と実施に関してしっかりと行っており、研究結果の検討において、赤色部分と白色部分を切り分ける SIPS という処理の不確実性が指摘されたが、すでに、その課題を解決すべく画像解析ソフトを用いた定性的な検査手法の検討も開始されており、今後、広く臨床応用される価値の高い新規検査方法と判断した。審査委員からの質疑に対して的確に応答され、学位授与に値する業績と判断した。